

トリプルネガティブ乳癌 (triple negative breast cancer: TNBC)

・乳癌は、乳腺組織で発生する癌である。年間約10万人が診断され、その大部分が女性であるが、男性においても罹患する。全ての癌種のうち、2019年時点で女性における罹患患者数が最も多い癌種である。

・治療開始前に、治療効果予測因子であるホルモン受容体とHER2状況の評価を必ず行うとされており、ホルモン受容体とHER2状況により治療方針が大きく異なる。

・トリプルネガティブ乳癌は、ホルモン受容体(エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体)、HER2のすべてが陰性を示す乳癌である。

・「乳癌診療ガイドライン2022年版」ではHER2陰性転移・再発乳癌に対する一次・二次化学療法としてはタキサン系薬剤の投与が標準的とされており、二次化学療法としてカペシタビンやエリブリンの投与が弱く推奨されている。

・サシツズマブ ゴビテカン(トロデルビ)は、化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌に適応を有しており、タキサン系抗悪性腫瘍剤による治療歴のある患者の二次以降の化学療法として使用される。

図1:トリプルネガティブ転移・再発乳癌の薬物療法について
(乳癌診療ガイドライン2022年版より作成)

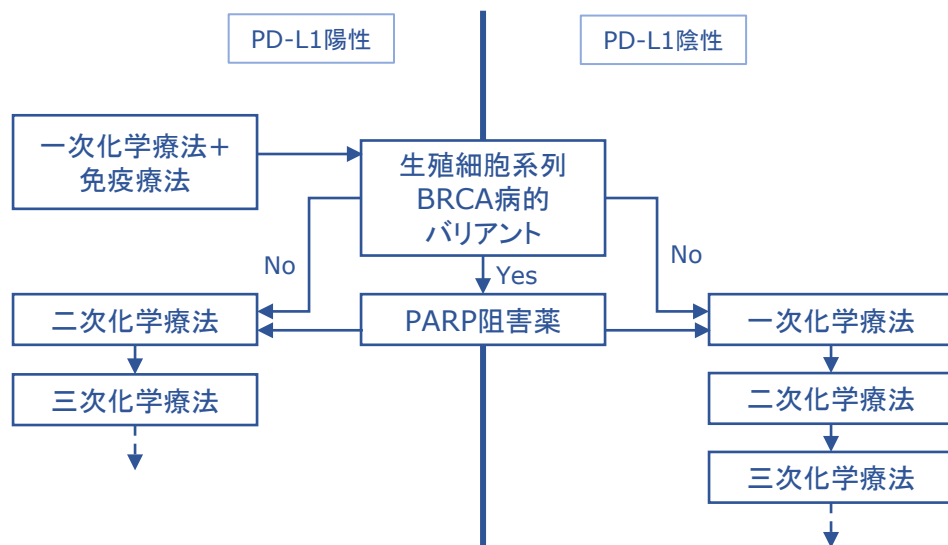


表1:用語について

ホルモン受容体:
内分泌療法に対する治療効果予測因子であるとともに、
予後予測因子。内分泌療法の適応があるか否かは、癌
組織におけるホルモン受容体の発現状況により決定さ
れる。

HER2(human epidermal growth factor
receptor 2):
浸潤性乳癌の予後予測因子であると同時に治療効果
予測因子。